

日本赤十字看護大学 看護学部
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学では、次の力を卒業までに身につけることを重視し、厳格な成績評価を行い、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1) から 6) は基本となり中核となる力であり、7) と 8) はより発展的な力として設定する。

1) 関係を築く力

- ① 一人ひとりの人間を総合的に理解することができる。
- ② 他の人たちと相互に支え合い、成長し合う関係を築くことができる。
- ③ 異なる文化、価値観を持つ人々を、かけがえのない人間として尊重する態度を持つことができる。
- ④ さまざまな人との間に支援に向けた関係を深めることができる。

2) 擁護する力

- ① 人間の尊厳と権利を倫理的な視点から擁護する上での課題に気づくことができる。
- ② 一人ひとりの人間の意思と独自性を尊重し守ることができる。

3) 実践する力

- ① 看護を受ける人の成長発達や生活の場に応じた看護に必要な知識・技術を用い、実践することができる。
- ② 看護を受ける人の持つ力を活かして実践することができる。
- ③ 健康レベルに応じた諸課題への対処に必要な知識・技術を用い、実践することができる。
- ④ 自らの行った実践を振り返り、評価することができる。
- ⑤ 災害等の危機的な状況下での人々の健康問題や支援活動に関心を持つことができる。

4) 探求する力

- ① 自らを取り巻く状況で取り組むべき課題を見出すことができる。
- ② 自らが設定した諸課題の情報を適切に収集し、分析することができる。
- ③ 自らが設定した諸課題の解決に向けて、根拠に基づいて解決策を検討することができる。
- ④ 新たな課題に関心を持ち、解決に向けて主体的に取り組むことができる。

5) 連携する力

- ① 変化する保健医療福祉システムにおける看護職及び他の専門職の機能と役割を理解することができる。
- ② 他の関係職種との情報交換や問題解決にむけた連携に参加することができる。
- ③ 地域社会のなかで、健康上の諸課題に対応するためにネットワークの一員として参加することができる。

6) 成長する力

- ① 専門職として成長し続けるための自己の課題を見出すことができる。
- ② 国内外の社会変化に関心を持ち、看護専門職として学び続ける態度を持つことができる。
- ③ 専門職を目指す者同士で共に教え学びあい、成長し合う姿勢を持つことができる。

7) 国際貢献する力

- ① 国内外の健康上の諸課題とその背景を理解することができる。
- ② 看護の専門性を活かした国際貢献に関心を持つことができる。

8) 変化を生み出す力

- ① 変動する社会や種々の状況下での人々の健康へのニーズに関心を持つことができる。
- ② より良い社会の実現にむけて、新たな看護を創り出そうとする姿勢を持つことができる。

日本赤十字看護大学 看護学部
教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学のカリキュラムは、教育目的・目標の実現を目指して以下の方針でカリキュラムを編成し、実施する。

- 1) 高等学校からの連携教育を図り、看護専門職として基礎的な内容から専門的・応用的な内容へと段階的に学修を積めるように配置するとともに、各段階で常に人道(Humanity)を実現するための看護の原点に立ち返って探求できるらせん型のカリキュラムとする。
- 2) 授業では、それぞれの科目を講義、演習、実習などの多様な学修形態を通じて展開し、グループワーク、発表、討議などの能動的学修を取り入れることで、卒業時到達目標として身につけるべき8つの力を総合的に育成する。
- 3) 学生一人ひとりの個別性をふまえた教育のための少人数による学修を取り入れるとともに、大学での学びを通じて自律性や創造性を発揮できるよう、学生の自己学修を促進する時間割編成と、応用的・発展的な学修を選択的に履修できる科目設定を行う。

具体的には、＜基礎科目群＞と＜看護専門科目群＞という2つの科目群によって構成し、2つの科目群のバランスを配慮したカリキュラム構造としている。

＜基礎科目群＞は、建学の理念を基盤とした幅広い教養と豊かな人間性のある人材育成を目的とするための科目群である。ここでは、「赤十字」、「人間」、「社会」、「自然と科学」、「情報」、「言葉」、「健康」、「研究」に区分する。

＜看護専門科目群＞は看護学の専門的知識・技術を基礎から応用へと段階的に学修するための科目群である。ここでは、「看護論」、「看護技術論」、「看護援助論」、「精神保健看護学」、「発達看護学」、「健康レベル別看護学」、「地域・在宅看護学」、「看護管理学・看護教育学」、「応用看護学」、「国際・災害看護学」、「看護学実習」、「公衆衛生看護学」に区分する。

日本赤十字看護大学 看護学部 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本学では、赤十字の理念に基づき、看護の実践と研究に必要な基礎的能力を持ち、人類と国際社会に貢献できる、幅広い教養と豊かな人間性のある人材を育てることを目指しています。そのために、次のような学生を求めています。

1. 赤十字理念である人道（Humanity）に共感し、自分も他者も大切にできる人
2. 看護学を学ぶために必要な基礎学力を持ち、論理的に考えることができる人
3. 感性が豊かで、多様な人とコミュニケーションをとることができる人
4. 看護に関する学問・実践の楽しさや深さを発見し、持続的に学ぼうとする意欲を持つ人

総合型選抜、3種類の学校推薦型選抜、個別学力試験を課する一般選抜、及び大学入学共通テストを利用する4種類の一般選抜というさまざまな入学者選抜方式を採用し、多様な人材を受け入れることを目指しています。

総合型選抜

健康・生活・社会・国際・自然・環境などに対する深い関心、熱意をもって取り組んできた独自の活動の実績と、基礎学力、表現力、コミュニケーション能力を有し、将来看護の専門職者として活動する明確なビジョンと強い意志を持つ者を、多面的・総合的な評価により選抜します。

基礎学力・表現力：英語（外部検定試験）、小論文

活動の実績・学ぶ意欲・活動ビジョン・表現力・コミュニケーション能力：書類審査、個人面接

学校推薦型選抜

総合的な基礎学力とコミュニケーション能力・学ぶ意欲を有する者を選抜します。指定校推薦選抜、公募推薦選抜、赤十字特別推薦選抜の3種類があります。特に赤十字特別推薦選抜では、赤十字の理念を理解し、将来日本赤十字社の看護専門職者として活躍する強い意志を有する者を選抜します。

公募推薦選抜、赤十字特別推薦選抜

基礎学力：調査書「全体の学習成績の状況」、資料読解（記述を含む）

コミュニケーション能力・学ぶ意欲：面接（グループ討議・個人面接）

指定校推薦選抜

基礎学力：調査書「全体の学習成績の状況」、小論文

コミュニケーション能力・学ぶ意欲：面接（グループ討議・個人面接）

一般選抜

リテラシー（読解記述力）と理数系科目の基礎学力及びコミュニケーション能力・学ぶ意欲についてバランスが取れた者を選抜します。

基礎学力：英語、国語（記述式問題を含む）、理数系選択科目（数学、生物、生物基礎と化学基礎から1科目選択）

コミュニケーション能力・学ぶ意欲：面接（グループ討議・個人面接）

大学入学共通テスト利用選抜

基礎学力を重視して選抜します。試験科目によって4種類の入学者選抜試験があります。

I－A：理数系の基礎学力を審査

英語（リーディング及びリスニング）、数学Ⅰ、数学A、理数系選択科目（数学Ⅱ、数学B、数学C、生物、化学、物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎から1科目選択）

※ 『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』は、「化学基礎」と「生物基礎」を選択解答すること。

I－B：リテラシー（読解力）の基礎学力を審査

英語（リーディング及びリスニング）、数学Ⅰ、数学A、国語（近代以降の文章）

Ⅱ：リテラシー（読解力）もしくは理数系の基礎学力を審査

英語（リーディング及びリスニング）、選択科目（数学Ⅰ、数学A、国語（近代以降の文章）、生物、化学、物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎から2科目選択）

※ 選択科目は、数学Ⅰ、数学A、国語（近代以降の文章）から必ず1つ以上選択すること。

※ 『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』は、「化学基礎」と「生物基礎」を選択解答すること。

赤十字6看護大学連携併願選抜：リテラシー（読解力）及び理数系の基礎学力を審査

英語（リーディング及びリスニング）、国語（近代以降の文章）、理数系選択科目（数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B、数学C、物理、化学、生物、地学、物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎から1科目選択）

※ 『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』は、2出題範囲を選択解答すること。

入学までに身につけてほしいこと

本学入学後は、看護学を修得するための独自のカリキュラムに沿って学び、ディプロマ・ポリシーに定める8つの力を身につけることを目指します。

そのために、大学入学資格取得に必要な教育課程（または試験）における基本的な国語の読解記述力と英語力、及び生物・化学・数学の基礎学力を身につけておくことが望まれます。

また、多様な価値観を持つ人々と関係を築いていくためのコミュニケーション能力も重要となります。

日本赤十字看護大学　さいたま看護学部
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学では、次の力を卒業までに身につけることを重視し、厳格な成績評価を行い、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与する。

（１）から（６）は基本となり中核となる力であり、（７）と（８）はより発展的な力として設定する。

（１）関係を築く力

- ① 一人ひとりの人間を総合的に理解することができる。
- ② 他の人たちと相互に支え合い、成長し合う関係を築くことができる。
- ③ 異なる文化、価値観を持つ人々を、かけがえのない人間として尊重する態度を持つことができる。
- ④ さまざまな人との間に支援に向けた関係を深めることができる。

（２）擁護する力

- ① 人間の尊厳と権利を倫理的な視点から擁護する上での課題に気づくことができる。
- ② 一人ひとりの人間の意思と独自性を尊重し守ることができる。

（３）実践する力

- ① 看護を受ける人の成長発達や生活の場に応じた看護に必要な知識・技術を用い、実践することができる。
- ② 看護を受ける人の持つ力を活かして実践することができる。
- ③ 健康レベルに応じた諸課題への対処に必要な知識・技術を用い、実践することができる。
- ④ 看護を受ける人の安全を守るための配慮ができる。
- ⑤ 自らの行った実践を振り返り、評価することができる。
- ⑥ 災害等の危機的な状況下での人々の健康問題や支援活動に関心を持つことができる。

（４）探求する力

- ① 自らを取り巻く状況で取り組むべき課題を見出すことができる。
- ② 自らが設定した諸課題の情報を適切に収集し、分析することができる。
- ③ 自らが設定した諸課題の解決に向けて、根拠に基づいて解決策を検討することができる。
- ④ 新たな課題に関心を持ち、解決に向けて主体的に取り組むことができる。

（５）連携する力

- ① 変化する保健医療福祉システムにおける看護職及び他の専門職の機能と役割を理解することができる。
- ② 他の関係職種との情報交換や問題解決にむけた連携に参加することができる。
- ③ コミュニティのなかで、健康上の諸課題に対応するためにネットワークの一員として参加することができる。

（６）成長する力

- ① 専門職として成長し続けるための自己の課題を見出すことができる。
- ② 国内外の社会変化に関心を持ち、看護専門職として学び続ける態度を持つことができる。
- ③ 専門職を目指す者同士で共に教え学びあい、成長し合う姿勢を持つことができる。

(7) コミュニティに貢献する力

- ① 人々の生活の場であるコミュニティに関心に向けることができる。
- ② コミュニティにおける健康上の諸課題とその背景を理解することができる。
- ③ 看護の専門性を活かしたコミュニティへの貢献に関心と意欲を持つことができる。

(8) 変化を生み出す力

- ① 変動する社会や種々の状況下での人々の健康へのニーズに関心を持つことができる。
- ② より良い社会の実現にむけて、新たな看護を創り出そうとする姿勢を持つことができる。

日本赤十字看護大学　さいたま看護学部
教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学のカリキュラムは、教育目的・目標の実現を目指して以下の方針でカリキュラムを編成し、実施する。

- (1) 学生の発達段階と学習段階に即して、基礎教養的な知識を学ぶ「基礎科目群」と看護の専門知識・技術を学ぶ「看護専門科目群」の2群を置く。
- (2) 高等学校からの連携教育を図り、看護専門職として基礎的な内容から専門的・応用的な内容へと段階的に学修を積めるように配置するとともに、各段階で常に人道 (Humanity) (ヒューマニティ) を実現するための看護の原点に立ち返って探求できるらせん型のカリキュラムとする。
- (3) 授業では、それぞれの科目を講義、演習、実習等の多様な学修形態を通じて展開し、グループワーク、発表、討議等の能動的学修を取り入れることで、卒業時到達目標として身につけるべき8つの力を総合的に育成する。
- (4) 学生一人ひとりの個別性をふまえた教育のために、少人数による学修を取り入れるとともに、大学での学びを通じて自律性や創造性を発揮できるよう、学生の自己学修を促進する時間割編成と、応用的・発展的な学修を選択的に履修できる科目設定を行う。
- (5) コミュニティの概念を理解し、そこで生活する人々の視点に基づいて健康問題を理解し、必要な看護援助を展開できる能力を育成するために、系統的にコミュニティケアを学べる科目区分を置く。
- (6) 自ら学び探求する能力、及び専門職に求められる研究的な態度と能力を身につけるために、少人数による基礎ゼミ、研究に関する科目区分を置く。

具体的には、＜基礎科目群＞と＜看護専門科目群＞という2つの科目群によって構成し、2つの科目群のバランスを配慮したカリキュラム構造としている。

基礎科目群は、赤十字の理念である人道の実現に向けて努力できる人材の育成の理念に基づき、人間性を育むためのリベラルアーツの重要性を鑑み、「赤十字」、「人間」、「社会」、「自然と科学」、「情報」、「言葉」、「基礎ゼミ」、「健康」に区分する。

看護専門科目群は、看護の基礎的能力を育成するために、＜看護論＞＜看護技術論＞＜看護援助論＞の3区分で構成し、その土台の上に、様々な場や健康レベルに応じた看護実践能力を育成するために、＜コミュニティケア＞＜健康レベル別看護学＞＜発達看護学＞＜精神保健看護学＞＜多様な状況における看護学＞の5区分で構成する。さらに、専門家の能力として必要な科目を、＜応用看護学＞＜看護学実習＞＜研究＞の3区分で構成する。

また、保健師資格を修得するための科目区分として＜公衆衛生看護学＞を置く。

日本赤十字看護大学 さいたま看護学部 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本学では、赤十字の理念に基づき、看護の実践と研究に必要な基礎的能力を持ち、人類と国際社会に貢献できる、幅広い教養と豊かな人間性のある人材を育てることを目指しています。そのために、次のような学生を求めています。

1. 赤十字理念である人道（Humanity）に共感し、自分も他者も大切にできる人
2. 看護学を学ぶために必要な基礎学力を持ち、論理的に考えることができる人
3. 感性が豊かで、多様な人とコミュニケーションをとることができる人
4. 看護に関する学問・実践の楽しさや深さを発見し、持続的に学ぼうとする意欲を持つ人

総合型選抜、3種類の学校推薦型選抜、個別学力試験を課する一般選抜、及び大学入学共通テストを利用する4種類の一般選抜というさまざまな入学者選抜方式を採用し、多様な人材を受け入れることを目指しています。

総合型選抜

健康・生活・社会・国際・自然・環境などに対する深い関心、熱意をもって取り組んできた独自の活動の実績と、基礎学力、表現力、コミュニケーション能力を有し、将来看護の専門職者として活動する明確なビジョンと強い意志を持つ者を、多面的・総合的な評価により選抜します。

基礎学力・表現力：英語（外部検定試験）、小論文

活動の実績・学ぶ意欲・活動ビジョン・表現力・コミュニケーション能力：書類審査、個人面接

学校推薦型選抜

総合的な基礎学力とコミュニケーション能力・学ぶ意欲を有する者を選抜します。指定校推薦選抜、公募推薦選抜、赤十字特別推薦選抜の3種類があります。特に赤十字特別推薦選抜では、赤十字の理念を理解し、将来日本赤十字社の看護専門職者として活躍する強い意志を有する者を選抜します。

公募推薦選抜、赤十字特別推薦選抜

基礎学力：調査書「全体の学習成績の状況」、資料読解（記述を含む）

コミュニケーション能力・学ぶ意欲：面接（グループ討議・個人面接）

指定校推薦選抜

基礎学力：調査書「全体の学習成績の状況」、小論文

コミュニケーション能力・学ぶ意欲：面接（グループ討議・個人面接）

一般選抜

リテラシー（読解記述力）と理数系科目の基礎学力及びコミュニケーション能力・学ぶ意欲についてバランスが取れた者を選抜します。

基礎学力：英語、国語（記述式問題を含む）、理数系選択科目（数学、生物、生物基礎と化学基礎から1科目選択）

コミュニケーション能力・学ぶ意欲：面接（グループ討議・個人面接）

大学入学共通テスト利用選抜

基礎学力を重視して選抜します。試験科目によって4種類の入学者選抜試験があります。

I－A：理数系の基礎学力を審査

英語（リーディング及びリスニング）、数学Ⅰ、数学A、理数系選択科目（数学Ⅱ、数学B、数学C、生物、化学、物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎から1科目選択）

※ 『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』は、「化学基礎」と「生物基礎」を選択解答すること。

I－B：リテラシー（読解力）の基礎学力を審査

英語（リーディング及びリスニング）、数学Ⅰ、数学A、国語（近代以降の文章）

Ⅱ：リテラシー（読解力）もしくは理数系の基礎学力を審査

英語（リーディング及びリスニング）、選択科目（数学Ⅰ、数学A、国語（近代以降の文章）、生物、化学、物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎から2科目選択）

※ 選択科目は、数学Ⅰ、数学A、国語（近代以降の文章）から必ず1つ以上選択すること。

※ 『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』は、「化学基礎」と「生物基礎」を選択解答すること。

赤十字6看護大学連携併願選抜：リテラシー（読解力）及び理数系の基礎学力を審査

英語（リーディング及びリスニング）、国語（近代以降の文章）、理数系選択科目（数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B、数学C、物理、化学、生物、地学、物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎から1科目選択）

※ 『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』は、2出題範囲を選択解答すること。

入学までに身につけてほしいこと

本学入学後は、看護学を修得するための独自のカリキュラムに沿って学び、ディプロマ・ポリシーに定める8つの力を身につけることを目指します。

そのために、大学入学資格取得に必要な教育課程（または試験）における基本的な国語の読解記述力と英語力、及び生物・化学・数学の基礎学力を身につけておくことが望まれます。

また、多様な価値観を持つ人々と関係を築いていくためのコミュニケーション能力も重要となります。

日本赤十字看護大学大学院 看護学研究科
修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1. 看護学専攻修士課程

修士課程に所定の期間在学し、修了要件となる単位数を修得するとともに、学位論文審査及び最終試験に合格し、以下の能力を獲得し、かつそれらを統合して発揮する能力を有する人に、学位（修士（看護学））を授与する。

- ① 看護における課題を知識と経験から得た根拠に基づき、分析する能力
- ② 人々の尊厳と権利を擁護するために、倫理的課題を多角的に分析し、対応する能力
- ③ 他者との相互作用を通して、自己を内省し、新たな行動につなげる能力
- ④ 既存の知見を体系的に収集し、批判的に吟味し、統合する能力
- ⑤ 研究課題を見出し、研究計画を立案し、研究を遂行し、論文として知見をまとめる能力
- ⑥ 多職種と協働し、必要に応じて専門職としてのリーダーシップを発揮する能力
- ⑦ 国内外の社会変化、研究知見、実践の動向を把握する能力

研究・教育者を目指す人は、①～⑦に加え、以下の能力を身につけている。

- a. 専門分野の知見を掘り下げ、自らの研究課題から得た知見を体系づける能力
- b. 専門分野の知見の発展に向け、新たな知見を探究する能力
- c. 専門分野の知見を、看護学教育の講義、演習、実習等に活用する能力
- d. 自ら取り組んだ研究課題とその成果を、さらに探究していく能力
- e. 看護学を志す人の成長をはぐくみ、自らも成長していく能力
- f. 看護研究・教育上の課題の解決に向けて、リーダーシップを発揮し、変革者となる能力

専門看護師を目指す人は、①～⑦に加え、以下の能力を身につけている。

- a. 専門分野の実践上の課題に対し、根拠に基づいて対応する能力
- b. 専門分野におけるより複雑な現象に対応する能力
- c. 専門分野におけるより複雑な倫理的な課題に対応する能力
- d. 実践上の課題を解決するために、多職種との間で連携・調整する能力
- e. 専門分野におけるスタッフの成長をはぐくむ教育能力
- f. 必要な新しいしくみを開発し、リーダーシップを発揮し、変革者となる能力

看護教育または看護管理の実践者を目指す人は、①～⑦に加え、以下の能力を身につけている。

- a. 看護教育または看護管理分野の知識・技術を活用し組織を主体的に運営する能力
- b. 看護教育または看護管理分野におけるより複雑な倫理的課題に対応する能力
- c. 看護教育または看護管理分野の質向上のために、組織内外の人々と連携・調整する能力
- d. 看護教育または看護管理に携わる人の成長をはぐくみ、自らも成長していく能力
- e. 看護教育または看護管理上の課題を解決するために新しいしくみを開発し、変革を牽引する能力

2. 国際保健助産学専攻修士課程

修士課程に所定の期間在学し、修了要件となる単位数を修得するとともに、学位論文審査及び最終試験に合格し、以下の能力を獲得し、かつそれらを統合して発揮できる能力を有する人に、学位（修士（看護学））を授与する。

- ① 実践における現象から課題を抽出し、幅広い視点から分析する能力
- ② 人々の尊厳と権利を擁護するために、倫理的課題を多角的に分析し、対応する能力

- ③ 他者との相互作用を通して、自己を内省し、他者との関係性を築く能力
- ④ 既存の知見を吟味して研究課題を見出し、研究を遂行し、論文としてまとめる能力
- ⑤ 実践における課題に対して、根拠に基づいて支援を遂行する能力
- ⑥ 多職種と協働し、必要に応じて専門職としてのリーダーシップを発揮する能力
- ⑦ 世界的視野から国内外の社会変化、研究知見、実践の動向を把握する能力
- ⑧ 変動する社会に対応し、専門職として自己成長し、専門領域の発展に寄与する能力

研究・教育者を目指す人は、①～⑧に加え、以下の能力を身につけている。

- a. 国際保健助産分野の知見を掘り下げ、自らの研究課題から得た知見を体系づける能力
- b. 国際保健助産分野の知見の発展に向け、新たな知見を探究する能力
- c. 国際保健助産分野の知見を、教育の講義、演習、実習等に活用する能力
- d. 国際保健助産分野で自ら取り組んだ研究課題とその成果を、さらに探究していく能力
- e. 国際保健助産分野を志す人の成長をはぐくみ、自らも成長していく能力
- f. 国際保健助産分野の課題の解決に向けて、専門職としてリーダーシップを発揮し、変革者となる能力

＜実践コース＞

助産師を目指す人は、①～⑧に加え、以下の能力を身につけている。

- a. 助産学分野の実践上の課題に対し、根拠に基づいて倫理的に対応する能力
- b. 助産学分野における高度実践能力遂行のための基礎的能力
- c. 助産学分野の研究課題を見出し、研究計画を立案し、課題研究を遂行する能力
- d. 助産学分野の実践上の課題を解決するために、多職種と協働する基礎的能力
- e. 助産学分野の実践上の課題を解決するために必要なしくみを探究し、資源を活用、調整する基礎的能力
- f. 助産学分野の課題の解決に向けて、専門職としてリーダーシップを発揮し、変革者となる基礎的能力

3. 看護学専攻博士後期課程

博士後期課程に所定の期間在学し、修了要件となる単位数を修得するとともに、学位論文審査及び最終試験に合格し、以下の能力を獲得し、かつそれらを統合して発揮する能力を有する人に、学位（博士（看護学））を授与する。

- ① 看護における現象を深い学識をもとに捉え、看護学の発展に向けた課題を明らかにする能力
- ② 人々の尊厳と権利を擁護するために、複雑な倫理的課題を俯瞰的・批判的に分析し、新たな方略を提言する能力
- ③ 看護学の発展に寄与する研究を独立して推進する能力
- ④ 研究成果を公表・提言し、実践に還元する能力
- ⑤ 学際的に協働し、リーダーシップを発揮し、社会の変革に挑戦する能力
- ⑥ 世界的視野から新規性のある課題に挑戦し、発信する能力

4. 共同災害看護学専攻博士課程

博士課程共同災害看護学専攻に所定の期間在学し、修了要件となる単位数を修得するとともに、博士論文の審査及び最終試験に合格し、以下の要件を満たす者に学位を授与する。学位の名称は、博士（看護学）とし、Disaster Nursing Global Leader を付記する。

- ① 人間の安全保障を理念として、いかなる災害状況でも「その人らしく健康に生きる」ことを支援することができる能力を有している。
- ② 災害サイクル諸局面において「健康に生きるための政策提案」に取り組むことができる能力を有している。

- ③ グローバルな視点から安全安心社会の実現に向けて、産学官との連携を築き、制度やシステムを変革できる能力を有している。
- ④ 学際的な視点、国際的な視点から災害看護学を構築し、災害看護学を研究開発できる能力を有している。

日本赤十字看護大学大学院 看護学研究科
教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 看護学専攻修士課程

看護学専攻の教育目標に到達するため、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施している。

- ① 幅広い視点から現象を捉える力を育成するために、専門分野を超えた学修が必要な内容を共通科目として置く。
- ② 研究能力を育成するために、特別研究を各領域に置く。
- ③ 人々の尊厳と権利を擁護する能力を育成するために、赤十字の理念である人道に関する科目を置く。

研究・教育者育成のため、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施している。

- ① 10 の専門領域（基礎看護学、がん看護学、小児看護学、成人看護学、老年看護学、精神保健看護学、地域看護学、看護教育学、看護管理学、国際・災害看護学）に必要な科目（特講・演習・実習）を置く。

専門看護師育成のため、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施している。

- ① 専門看護師 8 コース（がん看護、小児看護、クリティカルケア、慢性看護、老年看護、精神看護、在宅看護、災害看護）の教育課程に必要な科目を置く。
- ② 専門看護師としての高度実践力を養うために、共通科目 A、共通科目 B を置く。

看護教育または看護管理の実践者育成のため、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施している。

- ① 2 の専門領域（看護教育学、看護管理学）に必要な科目（特講・演習・実習）を置く
- ② 認定看護管理者認定審査受験、及び看護師等養成所の専任教員または教務主任の養成講習会修了資格取得に必要となる科目を置く。

2. 国際保健助産学専攻修士課程

国際保健助産学専攻の教育目標に到達するため、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施している。

- ① 幅広い視点から現象を捉える力を育成するための 3 つの専門分野（ウイメンズ・ヘルス・プロモーション分野、国際保健助産分野、助産学分野）科目を置く。
- ② 専門分野を超えた内容を学修するために必要な共通科目を置く。
- ③ 研究能力を育成するための科目を置く。
- ④ 人々の尊厳と権利を擁護する能力を育成するために、赤十字の理念である人道に関する科目を置く。

研究・教育者育成のため、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施している。

- ① ウイメンズ・ヘルス・プロモーション分野に関する能力および研究能力を育成するための科目を置く。
- ② 国際保健助産分野に関する能力および研究能力を育成するための科目を置く。

助産師国家試験受験資格要件及び高度実践助産師育成のため、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施している。

- ① 助産師国家試験受験資格に必要な助産学分野科目を置く。
- ② 受胎調節実地指導員資格取得のための科目を置く。

- ③ ウイメンズ・ヘルス・プロモーション分野に関する能力を育成するための科目を置く。
- ④ 国際保健助産分野に関する能力および研究能力を育成するための科目を置く。

3. 看護学専攻博士後期課程

博士後期課程の教育目標に到達するため、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施している。

- ① 分野として、基礎看護学、応用看護学（母性看護学、小児看護学、成人看護学、老年看護学、精神保健看護学、地域看護学、国際・災害看護学）、看護教育・管理学を置く。
- ② 専門領域毎に必要な特論、特別研究を置く。
- ③ 高度な研究能力育成のため、看護科学特論、看護研究特論、研究計画書セミナーを共通科目に置く。

4. 共同災害看護学専攻博士課程

博士課程共同災害看護学専攻は、災害看護のグローバルリーダーを養成するために、教育目的・目標に基づき、以下のような方針で教育課程を編成・実施している。

- ① カリキュラムは、災害看護学の基盤となる「災害看護学の基盤を支える科目群」、災害看護学に関する専門的な知識・技術・技能を修得するための「災害看護学の専門科目群」、学生が自分の関心や課題に沿って自律的に学びを深める「インデペンデント学修科目群」および「災害看護学研究支援科目群」の4つの科目群によって構成する。
- ② 学際的および国際的視野を養い、災害看護の研究者かつ高度な実践者としての能力が修得できるように、講義に加え、演習、実習など、多様な教育方法を組み合わせて授業科目を開設する。
- ③ 構成大学院（「高知県立大学大学院看護学研究科」「兵庫県立大学大学院看護学研究科」「千葉大学大学院看護学研究科」「東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科」「日本赤十字看護大学大学院看護学研究科」）は、学生が各構成大学院から10単位以上の履修ができるように必要な科目を開講する。
- ④ 学修の課程で、その成果を確認するために Preliminary Examination と Qualify Examination を実施する。
- ⑤ 構成大学院の専任教員による研究指導体制の下で、災害看護学に関連する理論、高度な実践や研究についての知識を統合して災害看護学の「博士論文」を作成し、提出できるように科目を編成する。

日本赤十字看護大学大学院 看護学研究科 修士課程看護学専攻 入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

本専攻では、幅広い視点で看護の現象を捉え、人々の尊厳と権利を尊重した高い倫理観とともに、高度な看護実践能力や基礎的研究能力のもと、様々な課題を探究することで看護学の発展と人々の健康に貢献できる看護専門職を育成することを目指しています。そのために、次のような学生を求めます。

1. 看護をはじめとする実践で得た体験を大切にして、看護学の探究を志す人
2. 赤十字の理念である人道（ヒューマニティ）に共感し、一人ひとりを大切に、人々の尊厳を守る実践・教育・研究を志す人
3. 自らの意見をもち、かつ柔軟に他者の意見に耳を傾けることのできる人
4. 論理的にものごとを考え課題を探究する基礎的な力を有している人

上記の求める学生像に合致した入学者を受け入れることを目指し、次の選抜を実施します。

一般（学内選考・特別選考含む）

看護学専門領域において、実践者および教育・研究者をめざす者に対して、提出された成績証明書等により書類選考するとともに、看護専門科目における学力検査、面接試験によって意欲および修了可能性について審査します。

なお、学習に必要となる英語の能力については、日本英語検定、TOEIC、TOEFL、国際連合公用語英語検定試験等のいずれかの公式スコアによって審査します。

社会人（学内選考・特別選考含む）

看護学専門領域において、実践者および教育・研究者をめざす看護職として3年以上実務経験のある者に対して、提出された成績証明書等により書類選考するとともに、看護専門科目における学力検査、面接試験によって意欲および修了可能性について審査します。

看護教育学・看護管理学 実践コース（学内選考・特別選考含む）

看護職として5年以上の実務経験のある看護教員および看護管理者、現任教育担当で、幹部教員や認定看護管理者をめざす者に対して、提出された成績証明書等により書類選考するとともに、看護専門科目における学力検査、面接試験によって意欲および修了可能性について審査します。

日本赤十字看護大学大学院 看護学研究科 修士課程国際保健助産学専攻 入学受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

本専攻では、幅広い視点で国際保健助産の現象を捉え、人々の尊厳と権利を尊重した高い倫理観とともに、高度な助産実践能力や基礎的研究能力のもと、様々な課題を探究することで国際保健助産学の発展と人々の健康に貢献できる専門職を育成することを目指しています。そのために、次のような学生を求めます。

1. 看護をはじめとする実践で得た体験を大切にして、看護学の探究を志す人
2. 赤十字の理念である人道（ヒューマニティ）に共感し、一人ひとりを大切に、人々の尊厳を守ることを志す人
3. 自らの意見をもち、かつ柔軟に他者の意見に耳を傾けることのできる人
4. 論理的にものごとを考え課題を探究する基礎的な力を有している人
5. 世界的視野からものごとを考えることを志す人
6. 専門職者として人間形成を志す人

上記の求める学生像に合致した入学受入れを受けることを目指し、次の選抜を実施します。

研究コース

一般（学内選考・特別選考含む）

国内外の助産学・母性看護学あるいは母子保健学の領域において、実践者および教育・研究者をめざす、看護師免許取得もしくは取得見込みの者に対して、提出された成績証明書等により書類選考するとともに、母性看護学に関する学力検査、面接試験によって意欲および修了可能性について審査します。

なお、学習に必要な英語の能力については、日本英語検定、TOEIC、TOEFL、国際連合公用語英語検定試験等のいずれかの公式スコアによって審査します。

社会人（学内選考・特別選考含む）

国内外の助産学・母性看護学あるいは母子保健学の領域において、実践者および教育・研究者をめざす看護職として3年以上の実務経験のある者に対して、提出された成績証明書等により書類選考するとともに、母性看護学に関する学力検査、面接試験によって意欲および修了可能性について審査します。

実践コース

一般（学内選考・特別選考含む）

助産師資格取得に意欲のある看護師免許取得もしくは取得見込みの者に対して、提出された成績証明書等により書類選考するとともに、母性看護学に関する学力検査、面接試験によって意欲および修了可能性について審査します。

社会人（学内選考・特別選考含む）

助産師資格取得に意欲のある看護職として3年以上の実務経験のある者に対して、提出された成績証明書等により書類選考するとともに、母性看護学に関する学力検査、面接試験によって意欲および修了可能性について審査します。

学内推薦

本学の学部在学学生の中から助産師資格取得に意欲のある者に対して、指定された科目の成績等によ

り書類選考するとともに、面接試験によって意欲および修了可能性について審査します。

日本赤十字看護大学大学院 看護学研究科 博士後期課程看護学専攻 入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

博士後期課程では、看護学における深い学識や高度な実践能力とともに、卓越した専門性と倫理観に基づき人々の健康に貢献しうる研究を自立して行う能力をもち、世界的・学際的に看護学の発展を牽引できる看護専門職を育成することを目指しています。そのために、次のような学生を求めます。

1. 看護における現象を幅広い視点から省察し、看護学を探究できる人
2. 赤十字の理念である人道（ヒューマニティ）に共感し、高い倫理観をもち、人々の尊厳と権利を擁護できる人
3. 看護学の発展に寄与する研究に取り組むための基礎的な力を有している人
4. 世界的・学際的視野から、ものごとを探究することを志す人
5. 新規性のあるテーマや課題に挑戦する意欲を有している人
6. 上記の求める学生像に合致した入学者を受け入れることを目指し、次の選抜を実施します。

一般（学内選考含む）

修士の学位取得見込み者又は修士の学位を有し、看護学の研究者をめざす者に対して、提出された成績証明書等により書類選考するとともに、看護専門科目における学力検査、面接試験によって意欲および修了可能性について審査します。

社会人（学内選考含む）

看護職として3年以上の実務経験をもち、修士の学位を有し、看護学の研究者をめざす者に対して、提出された成績証明書等により書類選考するとともに、看護専門科目における学力検査、面接試験によって意欲および修了可能性について審査します。